

## 1. 1. 3 スケトウダラ

担当者 調査研究部 田中 伸幸

### (1) 目的

スケトウダラは、オホーツク総合振興局管内において主に沖合い底曳き網（以下、沖底と称す）漁業の重要な漁獲対象資源であり、また、「海洋生物資源の保護及び管理に関する法律」によって特定海洋生物資源に指定され、TAC が設定されている。そのため、スケトウダラ資源の動向を把握し、管内の漁業経営の安定化を図る。

### (2) 経過の概要

沖底漁獲量は、「北海道沖合底曳網漁業漁場別漁獲統計」の中海区「オコック沿岸」と「N46' 以北オコック海」を集計した。沿岸漁獲量は、「漁業生産高統計」の宗谷総合振興局枝幸漁協からオホーツク総合振興局ウトロ漁協までを集計した（詳細は表 1 参照）。ただし、2009、2010 年度は暫定値である。

2010 年 5 月と 12 月に網走港に水揚げされたスケトウダラの生物測定を行った。なお、本調査は国費予算である「資源評価調査」と共同で行っている。

### (3) 得られた結果

#### ア 漁獲量の推移

本海域の近年のスケトウダラ漁業は、その漁獲の 95% 以上を大臣許可の沖底漁業が占め、残りはスケトウダラ刺し網漁業などの沿岸漁業である。

沖底漁業の漁獲量は、1975 年度には約 25 万トンの漁獲があった（表 1、図 1）。1976～1985 年度の漁獲量は、毎年ほぼ 10 万トン以上であったが、この間、漁獲量は増減を繰り返しつつも減少傾向を示していた。1986 年度には漁獲量が 5 万トン前後に減少し、1989 年度以降、現在まで漁獲量は 3 万トン以下の低水準で推移している。1980 年代末から 1990 年代初めにかけて、操業時の狙いがスケトウダラからズワイガニに変わり、スケトウダラを漁獲する漁法の中心がトロールからかけまわしに変化した。しかし、1996 年度以降はズワイガニの漁獲量も減少し、かけまわしがズワイガニに漁獲努力を集中させる傾向は弱まっている。2005 年度の漁獲量は 5,480 トンで、漁獲統計が収集可能となった 1964 年以降最低となったが、2006 年度以降漁獲量は増加傾向に転じ、2010 年度は 36,640 トン（暫定値）であった（表 1）。1975 年度以降の沿岸漁業による漁獲量は、沖底を含めた本水域内漁獲量全体の 5% 以下で推移してきた（表 1、図 1）。漁獲量は 1975～1980 年度まで増加傾向を示し、1980 年度には 5,572 トンまで増加したが、1981 年度には 596 トンまで急減した。その後、再び漁獲量は増加傾向に転じ、1986 年度に 2,030 トン、1987 年度に 1,919 トンとなった。しかし、1988 年度になると再度急減し、2009 年度まで 250 トン以下の漁獲水準が続いている。2010 年度の漁獲量は 159 トン（暫定値）であった。

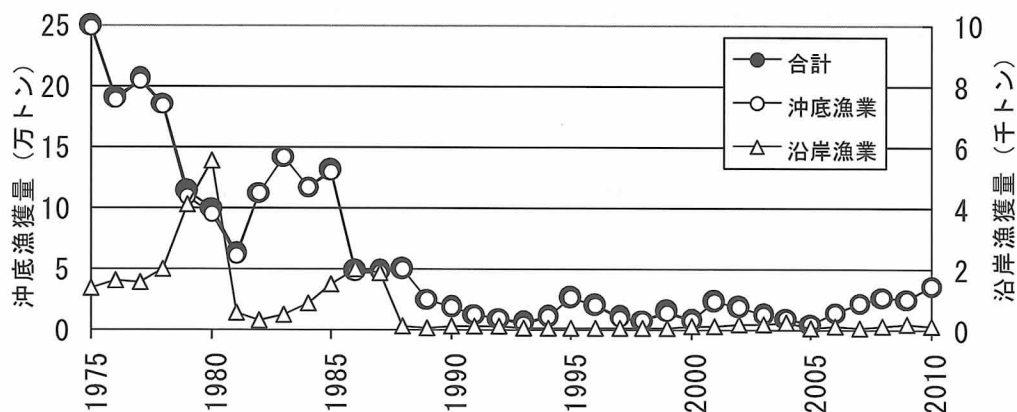


図 1 オホーツク海におけるスケトウダラ漁獲量の経年変化

表 1 オホーツク海における  
スケトウダラ漁獲量の経年変化

| (単位：トン) |         |       |         |
|---------|---------|-------|---------|
| 年度      | 沖底      | 沿岸    | 合計      |
| 1975    | 247,984 | 1,410 | 249,394 |
| 1976    | 189,220 | 1,615 | 190,835 |
| 1977    | 204,015 | 1,589 | 205,604 |
| 1978    | 184,429 | 2,017 | 186,446 |
| 1979    | 110,206 | 4,142 | 114,348 |
| 1980    | 94,968  | 5,572 | 100,540 |
| 1981    | 61,868  | 596   | 62,464  |
| 1982    | 112,754 | 346   | 113,100 |
| 1983    | 142,326 | 532   | 142,857 |
| 1984    | 116,978 | 891   | 117,869 |
| 1985    | 129,857 | 1,532 | 131,389 |
| 1986    | 46,968  | 2,030 | 48,998  |
| 1987    | 46,691  | 1,919 | 48,609  |
| 1988    | 50,022  | 123   | 50,145  |
| 1989    | 25,723  | 59    | 25,781  |
| 1990    | 18,519  | 140   | 18,659  |
| 1991    | 13,508  | 115   | 13,623  |
| 1992    | 10,185  | 140   | 10,325  |
| 1993    | 5,908   | 90    | 5,999   |
| 1994    | 11,365  | 110   | 11,475  |
| 1995    | 26,548  | 97    | 26,645  |
| 1996    | 20,194  | 60    | 20,254  |
| 1997    | 10,579  | 68    | 10,647  |
| 1998    | 8,587   | 88    | 8,675   |
| 1999    | 15,233  | 106   | 15,338  |
| 2000    | 8,138   | 118   | 8,255   |
| 2001    | 23,606  | 116   | 23,722  |
| 2002    | 18,906  | 235   | 19,141  |
| 2003    | 12,936  | 217   | 13,153  |
| 2004    | 10,028  | 238   | 10,266  |
| 2005    | 5,480   | 92    | 5,572   |
| 2006    | 14,657  | 129   | 14,785  |
| 2007    | 22,501  | 104   | 22,605  |
| 2008    | 27,265  | 129   | 27,394  |
| 2009    | 25,478  | 217   | 25,695  |
| 2010    | 36,640  | 159   | 36,798  |

資料：

沖底は「北海道沖合底曳網漁業漁場別漁獲統計」

・中海区「オコック沿岸（日本水域）」

沿岸は、

・1985年度以降は「漁業生産高報告」の枝幸漁協～ウトロ漁協

・1985年度以前は水試資料

\*2009, 2010年度は水試集計速報値

\*2011年1～3月分は未集計

表 2 オホーツク海における  
スケトウダラTAC量の経年変化

| 年度   | TAC量   |    | 期中<br>改定 |
|------|--------|----|----------|
|      | 沖底     | 沿岸 |          |
| 1997 | 25,000 | なし |          |
| 1998 | 25,000 | なし |          |
| 1999 | 25,000 | なし |          |
| 2000 | 25,000 | 若干 |          |
| 2001 | 25,000 | 若干 |          |
| 2002 | 25,000 | 若干 |          |
| 2003 | 25,000 | 若干 |          |
| 2004 | 25,000 | 若干 |          |
| 2005 | 24,000 | 若干 |          |
| 2006 | 24,000 | 若干 |          |
| 2007 | 26,000 | 若干 | ◎        |
| 2008 | 36,000 | 若干 | ◎        |
| 2009 | 27,000 | 若干 |          |
| 2010 | 42,000 | 若干 | ◎        |

TAC量は水産庁HPから引用した。

・1997-2001年は暦年

・2002年度以降は年度

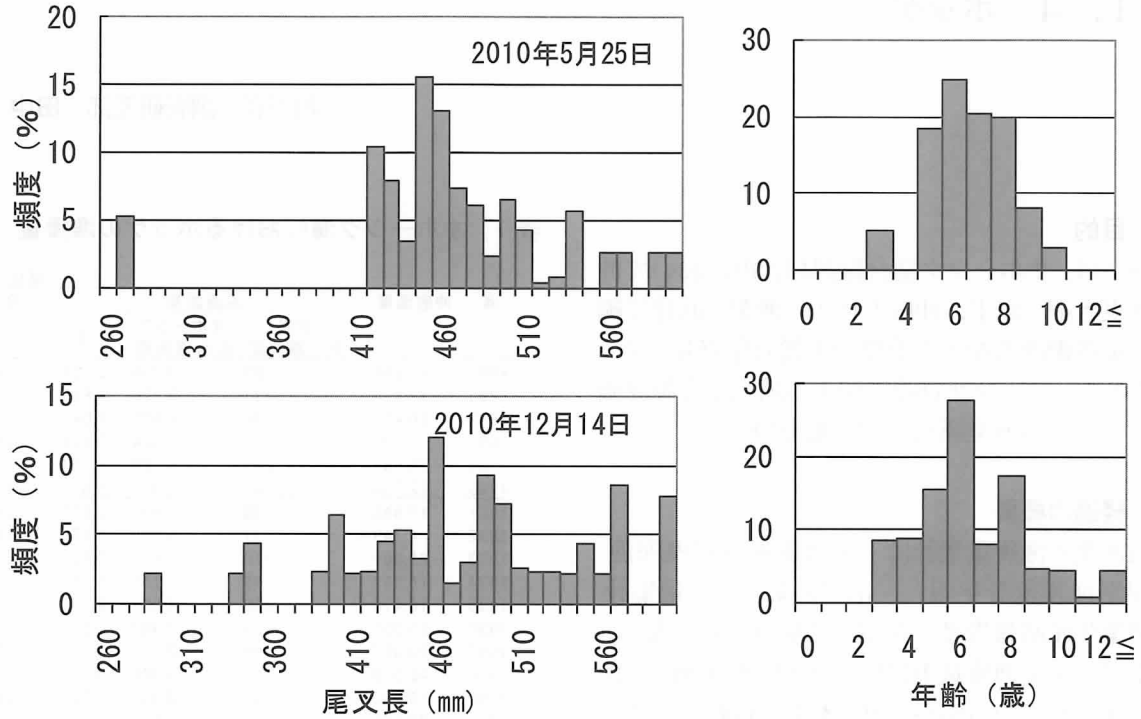


図 2 2010 年度に網走港に水揚げされたスケトウダラ沖底漁獲物の尾叉長および年齢組成

イ 漁獲物の体長・年齢組成

2010 年度に生物測定を行ったスケトウダラ漁獲物の体長・年齢組成を図 2 に示した。2010 年 5 月に漁獲されたスケトウダラ標本について、尾叉長のモードは 45 cm 台、年齢のモードは 6 歳であった。また、12 月についても尾叉長のモード 46 cm 台、年齢のモードは 6 歳であった。